

2014年9月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時

2014年9月6日(土) 10:00～16:00

2. 開催場所

(有)アイテックインターナショナル事務所

3. 参加者<50音順、敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|------|---|
| 井上 | 出 | 伊藤 | 出 | 梅本 | 欠 | 大見 | 出 | 奥田 | 出 | 杉浦 | 出 | 則尾 | 出 | 林(p) | 出 |
| 林(二) | 出 | 牧野 | 出 | 山口 | 書 | 横尾 | 出 | 和田 | 出 | | | 池田 | 休 | 森 | 休 |

4. 事例研究

「プランジャ型ソレノイドに対する推力特性のロバスト性検討、(株)いすゞ中央研究所」品質工学誌(2006)より目標の推力が、吸引面間距離にかかわらず長い距離にわたって一定の場合、どのようなSN比を使うべきか議論があった。

5. 項目数よりサンプル数が少ない場合のMT解析

MT法で、良品の集まりと、異常品の集まりを比較する場合、項目数より、データ数を多く準備する必要がある。(理由は、計算するさい、自由度が不足する為)実際の場面では、データを準備出来ない場合があり、その為の方法として、分割して計算する方法がある。今回、(牧野)より、3分割する方法について紹介した。又、解析から出て来た項目について、良品と不良品の検出された項目について、ヒストグラムや、散布図で比較して、わかりやすくする方法について紹介した。

6. SN比の問題点

日本規格協会 第105回研究発表会で、ばらつき指標(SN比)の問題に対する発表が、静岡の森先生よりあった。2003～2012の品質工学会の171件の事例を調査。106事例(62%)はSN比の最適条件<直交表内の最良値の関係にあった。その原因は、①割付因子間の交互作用の多列への交絡、②L18の3水準間交互作用の多列への交絡、③解析指標としての対数変換、④調合ノイズの近接・反転によるものと考えられる。との事。議論の結果、田口博士が唱える品質工学の適切な使い方ができていない事例が多い事によるものとする。

7. 新製品開発

開発予定商品の特徴と他社既存製品の調査結果などを紹介した。本テーマの今後の進め方として、開発予定商品に拘らず、新製品の提案をすることとした。なお、次回からは、複数のテーマ推進者を置き、QFDを利用することを検討する。

8. 新規事業

商社業の事業企画及び営業提案の立て方について議論を行った。
(STEP1:目的の明確化 ⇒ STEP2:企画背景分析 ⇒ STEP3:事業・市場の定義)
次回より商社の機能を明確にし、QFDに基づき新規事業発掘を行うことが決定。

9. 次回案内

・日時:2014年10月4日(土)

・場所:中部品質管理協会 研修室

・検討テーマ(案)

①新製品開発の進め方(QFDによる進め方)

②新規事業について(QFDに基づく新規事業発掘)

③T法から導いた実験式によるパラメータ設計

④プランジャ型リニアソレノイドの機能について(目標値が一定の場合の標準SN比の解析)

⑤SN比はなぜ対数をとるのか

⑥アンケート結果の解析方法

⑦輪講の書籍について

⑧合宿研究会について

以上